

環境経営レポート

Environmental Management Report



2025

(2025.4～2026.3)



大阪金属株式会社本社・和泉工場 / HOYU 朋友金属株式会社

私たちは、地域と地球の
調和に配慮した事業者です



エコアクション21
認証番号 0004389

《 2025年度 環境経営レポート

2026年6月30日 発行 》

ページ

2	目次
3	環境経営方針
4	会社及び事業概要
5	会社及び事業概要(本社工場 生産の流れと製品)
6	環境経営システム組織図
7-8	環境経営目標とその実績
9-10	環境経営活動計画の取組結果：電気
11	〃 : ガソリン、軽油使用量削減
12	〃 : 廃棄物排出量削減
13	〃 : 水使用量削減、緑化活動による生物多様性への貢献
14	〃 : 化学物質使用量削減、環境に配慮した生産・活動の推進
15	環境関連法規等の遵守状況、SDG s 活動
16	次年度の取組内容
17	総評
18	代表者による全体評価と見直し・指示

経営理念

情熱・信念・和で業を磨き、人材と製品づくりを通して社会に貢献します。



品質方針

私たちは「顧客のニーズ及び期待」の向上の為、優れた技術力と人材で「お客様に信頼される品質確保」を目指し、確かな製品を提供します。
又、品質マネジメントシステムの有効性を、継続的に改善して競争力のある強い企業を目指します。

情熱と信念で誇れる製品を作ろう(クレームゼロをめざす!!)

環境経営方針 基本理念と行動指針

私たちは、社会の一員として、産業界への貢献を目指し、
人材と製品づくりを通して自主的かつ積極的に
環境保全活動に努め、環境経営の継続的改善に取り組み、
省資源、省エネの推進をし、
お客様から信頼される企業を目指します。

大阪金属株式会社

代表取締役 津田 岳彦

具体的に次のことを誓約します。

1. 環境関連法規の遵守
2. 電力及び燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
3. 原材料の節減、3R(減量・再使用・再生利用)の推進による廃棄物の削減
4. 水資源の節減
5. 化学物質使用量の管理、削減
6. 当社の製品及びサービスにおける、環境に配慮した
生産・活動の積極的取組
7. 全社員の環境学習の推進
8. 緑化活動による生物多様性への貢献
9. 「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加し、取り組む

この環境経営方針は、社外へも公表します。

制定日：2008年9月26日

改定日：2022年11月8日

代表取締役 津田 岳彦

1 事業者名及び代表者名

大阪金属株式会社
代表取締役 津田 岳彦



2 所在地

● 本 社

大阪府高石市高砂3丁目30番地

鋳物生産工場 併設



● 和泉工場

大阪府和泉市テクノステージ1丁目3番5号

海外調達品の受入・検査
出荷センター



● 朋友金属(株)

大阪府和泉市春木町68番地

金属加工工場 併設



● 和泉第2工場

大阪府和泉市テクノステージ3丁目5番17号

倉庫



● 朋友金属(株) 河内長野出張所

大阪府河内長野市小塩町263

● 筑波出張所

茨城県つくばみらい市坂野新田1-5 第2センター内

3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

本 社 :	管理責任者	常務取締役	藤岡 直樹	TEL : 072-268-0151
	推進委員	総務部課長	佐久間 智恵	"
	推進委員	製造部課長	河口 敬佑	"
和泉工場 :	推進委員	品管部班長	福井 勇士	TEL : 0725-53-5050
	推進委員	営業部主任	寺井 梨江	"
朋友金属 :	推進委員	総務チームMG	住本 薫	TEL : 0725-53-3991
	推進委員		荒木 南海	"

4 事業内容（認証・登録の範囲）

全組織・全活動
各種鋳物製品の開発・設計・製造・加工及び販売

5 事業の規模（2025年度）

- ・売上高（2025年度実績） 本社: 50,409万円 和泉工場: 222,426万円 朋友金属: 203,250万円
- ・本社工場生産能力 月産200ト
- ・従業員 66名（内数：本社18名, 和泉工場13名, 筑波出張所2名, 朋友金属(株) 33名）
- ・建屋規模（床面積）

本社・本社工場	1,094 m ²
和泉工場	970 m ²
和泉第2工場	1,113 m ²
筑波出張所	992 m ²
朋友金属	1,719 m ²
朋友金属・河内長野出張所	662 m ²

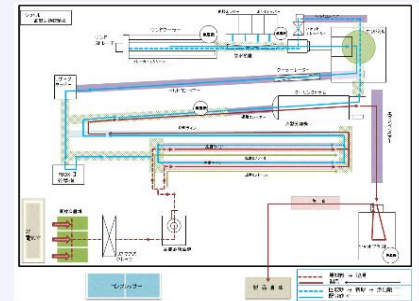
6 事業年度

4月～3月

当社の製品は、過酷な環境で使用される各種機械の鋳造パーツで、精密さと共に耐久性・堅牢性が求められます。
先進の鋳造テクノロジーと優れた生産システムを活かし高品質な製品をお届けしています。

FBOX-Ⅱライン

当社の生産ラインは、簡易型、木型を問わず生産が可能で型交換が容易なため、多品種ロット生産にも迅速に対応します。微妙な元素の配合や鋳造・冷却温度の設定を可能にするなど、徹底した品質管理を行うことで、高品質な製品をお届けしています。また、どの工程においても振動・騒音・粉塵・排水などの公害防止設備を設置し、工場をとり巻く周辺環境の安全性にも細心の注意をはらっています。



■生産工程と各段階での取り組み

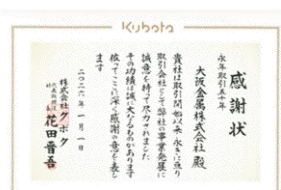


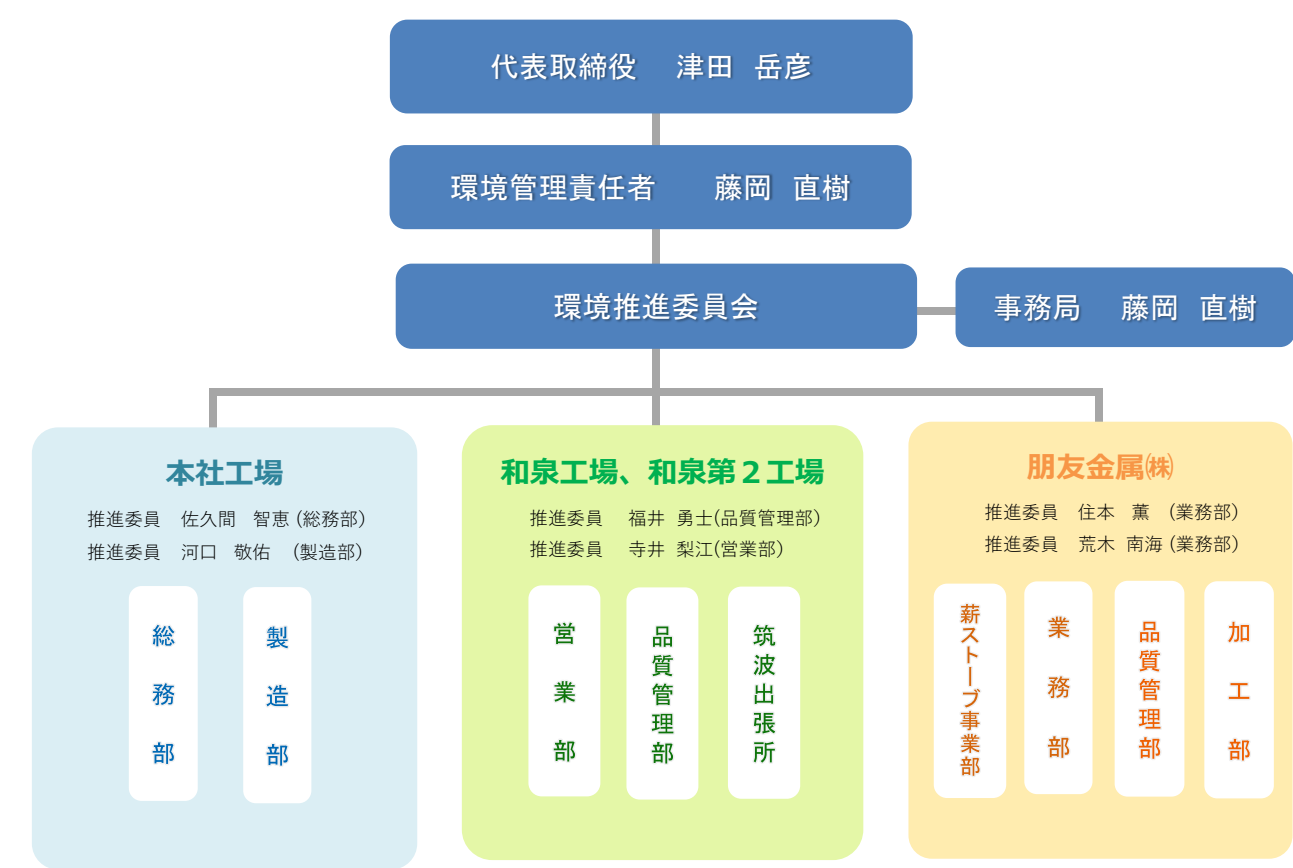
■製品ラインナップ



株式会社 クボタ 様より 永年取引50年 感謝状 2026年1月

長年にわたる取引実績が評価され、「永年取引50年感謝状」を授与いただきました。今後もお客様との信頼関係を大切に、品質向上と環境に配慮したもののづくりに取り組んでまいります。





	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役	・ 環境経営に関する最高責任者 ・ 環境経営システムの運用のために必要となる経営資源(人、設備、資金、情報等)を準備 ・ 環境管理責任者の任命 ・ 環境経営方針の策定、全従業員へ周知 ・ 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 環境推進委員会事務局	・ 環境経営システムの構築・実施・管理 ・ 「環境関連法規等の取りまとめ表」を承認 ・ 環境経営目標・活動計画書・環境経営レポートの確認 ・ 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告
環境推進委員	・ 環境管理責任者の補佐 ・ 環境への負荷及び取組の自己チェックの実施 ・ 「環境関連法規等取りまとめ表」の作成及び遵守評価の実施 ・ 環境経営目標・活動計画書の作成 ・ 活動実績集計 ・ 外部コミュニケーションの窓口 ・ 環境経営レポートの作成、公開
部門長	・ 環境経営システムの実施 ・ 環境経営方針の周知 ・ 活動計画の実施及び達成状況の報告 ・ 緊急事態への対応のためのテスト・訓練・記録
全従業員	・ 決められたことを守り、部門長の指示に従い取組を実行する ・ 自主的かつ積極的に環境活動へ参加

環境目標項目	対象区分別		前年度	2025年度（4～3月）				次年度目標	中期目標	
			2024年度	目標	実績	達成率	前年比	2026年度	2030年度	
規模	本社工場	生産量(t)	1,438	-----	1,636	--	114%	-----	-----	
		従業員	17 人		18 人		-----			
	和泉工場 /和泉第2	出荷量(t)	5,294.4	-----	5,432.0	--	103%	-----	-----	
		7月出荷量(t)	556		565.3		102%			
	筑波	従業員	13 人		13 人		-----			
		取扱量(t)	1,229.3	-----	1,395.6	--	114%	-----	-----	
	従業員	2 人		2 人		-----				
模	総計	総出荷量(t)	7,080	-----	7,392.9	--	104%	-----	-----	
	朋友金属	業務販売量(t)	5,968	-----	6,106	--	102%	-----	-----	
		加工生産量(t)	930	-----	824	--	89%	-----	-----	
		計 取扱量(t)	6,898	-----	6,930	--	100.5%	-----	-----	
従業員	35 人		33 人		-----					
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	本社	総量	720,169	712,968	803,672	89% ×	11.6% 増加	795,635	763,488	
		原単位 生産量(t)	500.8 /t	495.8 /t	491.2 /t	101% ○	-1.9% 削減	486.3 /t	466.7 /t	
	和泉工場	総量	23,538	23,303	20,190	115% ○	-14.2% 削減	19,988	19,180	
		原単位 出荷量(t)	4.45 /t	4.40 /t	3.72 /t	118% ○	-16.4% 削減	3.68 /t	3.53 /t	
	和泉第2	総量	623	617	643	96% ×	3.1% 増加	636	610	
		原単位 出荷量(t)	0.118 /t	0.117 /t	0.118 /t	99% ×	0.5% 増加	0.12 /t	0.11 /t	
	筑波	総量	3,951	3,911	4,499	87% ×	13.9% 増加	4,454	4,274	
		原単位 取扱量(t)	3.21 /t	3.18 /t	3.22 /t	99% ×	0.3% 増加	3.19 /t	3.06 /t	
	3拠点計	総量計	28,112	27,831	25,332	110% ○	-9.9% 削減	25,078	24,065	
		朋友金属	総量	165,557	163,901	140,446	117% ○	-15.2% 削減	139,041	133,424
原単位 取扱量(t)	24.00 /t		23.76 /t	20.27 /t	117% ○	-15.6% 削減	20.06 /t	19.25 /t		
CO ₂	総量計		913,838		969,449		6.1% 増加			
	太陽光発電による排出軽減量		19,296		19,657		1.9% UP			
【参考】当該年度に適用される調整後排出係数による二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	本社		960,212		1,062,019		10.6% 増加			
	和泉工場		29,130		25,471		-12.6% 削減			
	和泉第2		840		857		2.1% 増加			
	筑波		3,765		4,462		18.5% 増加			
	朋友金属		214,091		179,774		-16.0% 削減			
	総量計		1,208,037		1,272,584		5.3% 増加			
	排出係数	kg-CO ₂ /kWh	0.419/0.431(筑)		0.415/0.452(筑)					
エネルギー使用量の削減	電気 (kWh)	本社	総量	2,222,612	2,200,386	2,484,112	89% ×	11.8% 増加	2,459,271	2,359,906
			原単位 生産量(t)	1,546 /t	1,530 /t	1,518 /t	101% ○	-1.8% 削減	1,503 /t	1,442 /t
		和泉工場	総量	51,774	51,256	50,784	101% ○	-1.9% 削減	50,276	48,245
			原単位 出荷量(t)	9.78 /t	9.68 /t	9.35 /t	104% ○	-4.4% 削減	9.26 /t	8.88 /t
		和泉第2	総量	2,680	2,653	2,066	128% ○	-22.9% 削減	2,045	1,963
			原単位 出荷量(t)	0.51 /t	0.50 /t	0.38 /t	132% ○	-24.9% 削減	0.38 /t	0.36 /t
		筑波	総量	7136	7,065	7,442	95% ×	4.3% 増加	7,368	7,070
			原単位 取扱量(t)	5.81 /t	5.75 /t	5.33 /t	108% ○	-8.1% 削減	5.28 /t	5.07 /t
	朋友金属	業務	総量	9,449	9,355	9,235	101% ○	-2.3% 削減	9,143	8,773
		加工	総量	439,940	435,541	368,917	118% ○	-16.1% 削減	365,228	350,471
	原単位 生産量(t)	473.0 /t	468.3 /t	447.9 /t	105% ○	-5.3% 削減	443.5 /t	425.5 /t		
	総量計		2,732,915 kWh		2,922,556 kWh		6.9% 増加			
	太陽光発電量		本社	62,046 kWh		63,206 kWh				
		和泉								
ガソリン (L)	本社（＊1）	総量	367.15	使用量の把握	369.27	-	0.6% 増加	-	-	
	和泉工場	総量	290.1	287.2	376.38	76% ×	29.7% 増加	372.6	357.6	
		原単位 総出荷量(t)	0.041 /t	0.041 /t	0.051 /t	80% ×	24.2% 増加	0.050 /t	0.048 /t	
	筑波	総量	297.2	294.2	473.3	62% ×	59.3% 増加	468.6	449.7	
		原単位 取扱量(t)	0.242 /t	0.239	0.339 /t	71% ×	40.3% 増加	0.336 /t	0.322 /t	
	朋友金属	総量	1,533	1,518	452	336% ○	-70.5% 削減	447	429	
原単位 取扱量(t)		0.222 /t	0.220 /t	0.065 /t	337% ○	-70.7% 削減	0.065 /t	0.062 /t		
総量計		1,823 L		828 L	(筑波除く)	-54.6% 削減				

*購入電力CO2排出係数：2021年度調整後排出係数【本社、和泉、和泉第2、朋友】0.311kg-CO2/kWh(関西電力)、
【筑波】0.457kg-CO2/kWh(東京電力パワー・プラン) 【2022年度～2026年度の5年間は固定の排出係数を採用】

環境目標項目		対象サイト別		前年度	2025年度（4～3月）				次年度目標	中期目標	
				2024年度	目標	実績	達成率	前年比	2026年度	2030年度	
エネルギー削減	軽油（L） 	本社（＊1）		-	-	-		-	-		
		和泉 （キャババン）	総量	778.2	770.4	433.3	178% ○	-44.3% 削減	429.0	411.7	
			原単位 総出荷量(t)	0.110 /t	0.109 /t	0.059 /t	186% ○	-47% 削減	0.058 /t	0.056 /t	
		朋友金属	総量	5,024	4,973	5,349	93% ×	6.5% 増加	5,296	5,082	
			原単位 取扱量(t)	0.728 /t	0.721 /t	0.772 /t	93% ×	6.0% 増加	0.764 /t	0.733 /t	
総量計			5,802 L		5,782 L		-0.3% 削減				
産業廃棄物排出量の削減 (t) 	本社	鉦さい	総量	356.20	352.64	323.19	109% ○	-9.3% 削減	319.96	307.03	
			原単位 生産量(t)	0.248 /t	0.245 /t	0.198 /t	124% ○	-20.2% 削減	0.196 /t	0.188 /t	
	和泉	木くず	総量	57.52	56.94	60.67	94% ×	5.5% 増加	60.06	57.64	
			原単位 出荷量(t)	0.0109 /t	0.0108 /t	0.0112 /t	96% ×	2.8% 増加	0.0111 /t	0.0106 /t	
	筑波	木くず	総量	18.88	18.69	17.38	108% ○	-7.9% 削減	17.21	16.51	
			原単位 取扱量(t)	0.0154 /t	0.0152 /t	0.0125 /t	122% ○	-18.9% 削減	0.0123 /t	0.0118 /t	
	朋友金属	廃プラ	総量	19.78	19.58	22.75	86% ×	15.0% 増加	22.52	21.61	
原単位 取扱量(t)			0.00287 /t	0.00284 /t	0.00328 /t	86% ×	14.5% 増加	0.00325 /t	0.00312 /t		
総量計			452 t		424 t		-6.3% 削減				
水使用量の削減 (m) 	本社		総量	2,729.0	2,701.7	3,175.0	85% ×	16.3% 増加	3,143.3	3,016.3	
			原単位 生産量(t)	1.898 /t	1.879 /t	1.941 /t	97% ×	2.3% 増加	1.921 /t	1.844 /t	
	和泉 （延べ164人）		総量	155.0		139.0	-	-10.3% 削減			
			1人当り/月	0.842/人 /月	1.000/人 /月	0.848/人 /月	118% ○	0.6% 増加	1.000/人 /月	1.000 /月	
	朋友金属 （延べ366.8人）	生活用水	総量	467.2	467.2	457.1	102% ○	-2.2% 削減	457.1	457.1	
			1人当り/月	1.258/人 /月	1.258/人 /月	1.247/人 /月	101% ○	-0.9% 削減	1.247/人 /月	1.247 /月	
	加工部		総量	144	使用量の把握	132		-8.3% 削減	使用量の把握	使用量の把握	
原単位 生産量(t)		0.1548 /t	0.1548 /t	0.1603 /t	97%	3.5% 増加	0.1603 /t	0.1603 /t			
総量計			3,495 m		3,903 m		11.7% 増加				
化学物質使用量の削減 (kg) 	本社	ヘキサメチレントリン	総量	11.59	11.47	17.96	64% ×	55.0% 増加	17.78	17.06	
			原単位 生産量(t)	0.0081 /t	0.0080 /t	0.0110 /t	73% ×	36.2% 増加	0.0109 /t	0.0104 /t	
		酢酸ナトリウム	総量	205.0	203.0	213.0	95% ×	3.9% 増加	210.87	202.35	
			原単位 生産量(t)	0.143 /t	0.141 /t	0.130 /t	108% ○	-8.7% 削減	0.129 /t	0.124 /t	
		マンガン	総量	3,256.5 kg		3,490.5 kg		7.2% 増加			
		炭化ケイ素	総量	1,260.3 kg	使用量把握に努める	1,294.2 kg		2.7% 増加	使用量把握に努める		
	朋友金属	和泉(＊2)				微量の為、使用量の経過観察を行う					
		エチルベンゼン	総量	10.68 kg	10.57 kg	15.11 kg	70% ×	41.5% 増加	14.96 kg	14.36 kg	
				原単位 取扱量(t)	0.00155 /t	0.00153 /t	0.00218 /t	70% ×	40.9% 増加	0.00216 /t	0.00207 /t
			キシレン	総量	15.39 kg	15.24 kg	18.44 kg	83% ×	19.8% 増加	18.25 kg	17.51 kg
				原単位 取扱量(t)	0.00223 /t	0.00221 /t	0.00266 /t	83% ×	19.2% 増加	0.00263 /t	0.00253 /t
			トルエン	総量	2.87 kg	2.84 kg	1.73	164% ○	-39.7% 削減	1.71 kg	1.65 kg
原単位 取扱量(t)				0.00042 /t	0.00041 /t	0.00025 /t	165% ○	-40.0% 削減	0.00025 /t	0.00024 /t	
ジエタノールアミン		総量	7.00 kg	6.93 kg	10.01	69% ×	42.9% 増加	9.91 kg	9.51 kg		
		原単位 取扱量(t)	0.00102 /t	0.00101 /t	0.00144 /t	70% ×	42.2% 増加	0.00143 /t	0.00137 /t		
環境に配慮した生産・活動の推進		本社	不良率%	5.7%	6.0%	6.0%	100% ○	0.3% 増加	5.5%	5.5%	
	和泉	海外品不良率%	1.51%	1.49%	1.66%	90% ×	0.15% 増加	1.64%	1.58%		
	朋友金属	不良返品率%	3.03%	3.00%	3.10%	97% ×	0.1% 増加	3.07%	2.95%		
環境意識の向上	本社	環境教育	6 回	6 回	6 回	100% ○		6 回	6 回		
	和泉	環境教育	6 回	6 回	6 回	100% ○		6 回	6 回		
	朋友金属	環境教育	4 回	6 回	4 回	67% ×		6 回	6 回		

各サイトの使用燃料の内、灯油・LNG・LPG・都市ガスの各使用量は、季節要因もあり量的にも僅少で、当面環境目標としての扱いはしないこととした。

又、本社のガソリン及び軽油についても当面、環境目標としての扱いはしない。（*1）

和泉工場の化学物質使用量については、微量の為、環境目標としての扱いはしない。（*2）

●電気使用量削減

貢献するSDGs



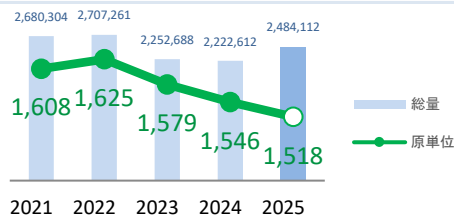
■ 本 社 電気使用量削減

目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・不要な照明を消す ・空調の適正管理 ・トラブル防止 ・メンテナンスの強化 ・工場機械用品の作業効率化

電気	目標	実績	評価
原単位	1,530 kWh/t	1,518 kWh/t	○
太陽光発電：排出軽減量差引		1,480 kWh/t	
総 量	2,200,386 kWh	2,484,112 kWh	×
太陽光発電：排出軽減量差引		63,206 kWh	

原単位では目標を達成する事が出来たましたが、生産量の増加、エアコンの増設、人的トラブルによる停止時間の増加等で使用量は増加しました。



○主な電力消費設備



電気使用量削減に貢献する設備

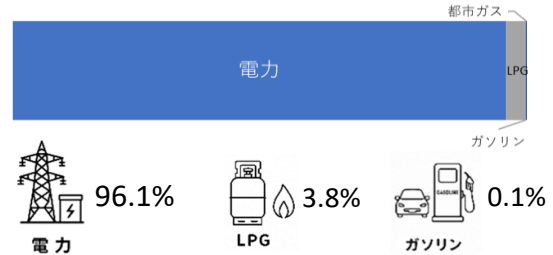
- 高生産性設備
水平割抜粋造型機FBOX-II
自動垂直割トップブローシェル造型
- 高効率・省エネ設備
コンプレッサ
- 発電設備
太陽光発電
- LED照明



電気使用量削減の取り組み

- エアコンクリーニング

○エネルギー源別のCO2排出割合



■ 和泉工場/筑波出張所 電気使用量削減

目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・不要な照明を消す ・ショットブラストの時間短縮 ・空調の適正管理 ・工場機械用品の作業効率化

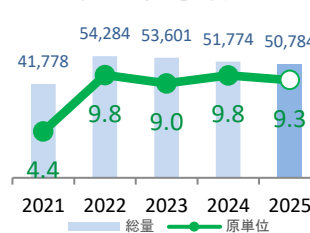
和泉工場

電気	目標	実績	評価
原単位	9.68 kWh/t	9.35 kWh/t	○
総 量	51,256 kWh	50,784 kWh	○

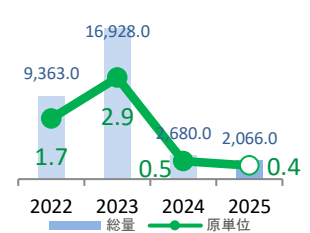
原単位、総量とも目標達成出来ました。

* 和泉工場での太陽光発電による削減量は、本社へ集約して計上しています。

和泉工場 電気使用量



和泉第2 電気使用量

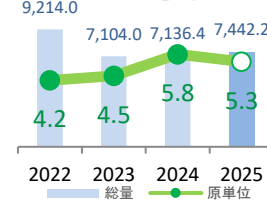


和泉第2工場

電気	目標	実績	評価
原単位	0.50 kWh/t	0.38 kWh/t	○
総 量	2,653 kWh	2,066 kWh	○

原単位、総量とも目標達成となりました。

筑波 電気使用量



○主な電力消費設備



電気使用量削減の取り組み

- LED照明

○エネルギー源別のCO2排出割合



●電気使用量削減

貢献するSDGs



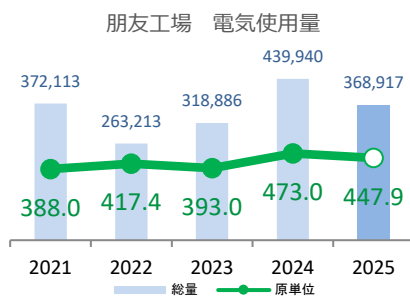
■ 朋友金属 電気使用量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

- 目標達成手段(工場) ・不要な照明、電気機器の電源OFF ・効率の良い生産計画
- 目標達成手段(事務所) ・不要な照明、電気機器の電源OFF ・空調の温度設定(夏：28℃、冬20℃)

工場

電気	目標	実績	評価
原単位	468.3 kWh/t	447.9 kWh/t	○
総量	435,541 kWh	368,917 kWh	○

総量、原単位とも目標達成となりました。加工部は生産量減少に伴い電気使用量も減少しましたが、原単位においても削減できたので効率の良い生産が実施できたと言えます。



業務(事務所、出張所)

電気	目標	実績	評価
総量	9,355 kWh	9,235 kWh	○

昨年に引き続き電気使用量の削減を達成しました。



○主な電力消費設備



エアコン

○主な電力消費設備(工場)



マシニングセンタ



NC旋盤



コンプレッサー



工場のクレーン

電気使用量削減に貢献する設備

○横型マシニングセンタ ニパタグリーンパッケージ仕様機・2026年1月導入

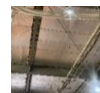
時間差立ち上げによるピーク電流の分散化や力率改善、負荷の多いモータのインバータ化、LED照明等により

消費電力量 最大40%カット

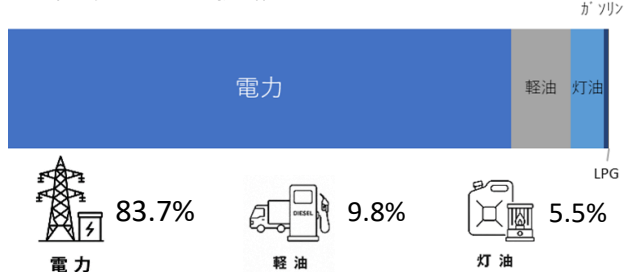


電気使用量削減の取り組み

- 2台のコンプレッサーの効率的な運用(加工)
- コンプレッサーの集約化(2台→1台:稼働)
- LED照明
- エアコンの清掃
- エアコンのタイマー設定
- 事務所の日よけロールカーテン



○エネルギー源別のCO2排出割合



脱炭素化経営の推進

- 脱炭素経営宣言(大阪) 登録 【脱炭素経営への意思表示・推進体制の構築】
- 大阪府気候変動対策の推進に関する条例に基づく届出 【温室効果ガス排出量の把握・計画策定・進捗管理】
- OSAKAサステナブル・スマートシティ・ファウンデーションへの参加 【脱炭素に関する情報収集・ネットワーク形成・先進事例の活用】

脱炭素経営の推進体制を整備するとともに、排出量の適切な管理や情報収集、関係機関との連携を通じて、継続的なCO2排出量の削減に取り組んでいます。

●ガソリン使用量削減

貢献するSDGs



■ 和泉工場/筑波出張所 ガソリン使用量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・アイドリングストップ ・適正速度の実施

和泉工場

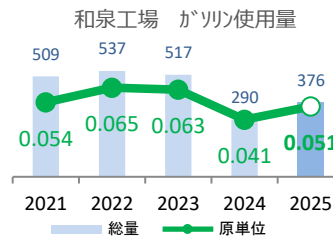
ガソリン	目標	実績	評価
原単位	0.041 L/t	0.051 L/t	×
総量	287 L	376 L	×

ガソリン使用量が増加し目標未達成となりました。

筑波出張所

ガソリン	目標	実績	評価
原単位	0.239 L/t	0.339 L/t	×
総量	294 L	473 L	×

客先での作業に伴う日常的な車両利用に加え、他の客先への定期的な出向があったため、使用量が増加しました。



ガソリン使用量削減の取り組み

- ハイブリッドカー



- バッテリー式フォークリフト

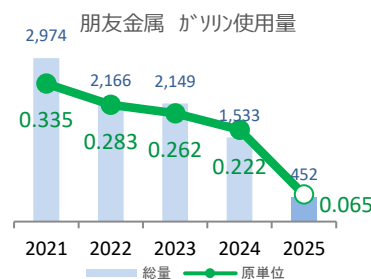


■ 朋友金属 ガソリン使用量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・アイドリングストップ ・適正速度の実施

ガソリン	目標	実績	評価
原単位	0.220 L/t	0.065 L/t	○
総量	1,518 L	452 L	○

フォークリフトをバッテリー車に入れ替えた為、ガソリンの使用量が大幅に削減できました。



ガソリン使用量削減の取り組み

- バッテリー式フォークリフトへ切り替え



- 電気自動車 ● ハイブリッドカー



●軽油使用量削減

貢献するSDGs



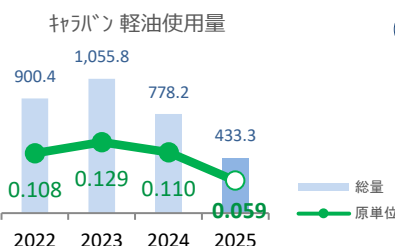
■ 和泉工場 軽油使用量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・アイドリングストップ ・適正速度の実施

キャラバン

軽油	目標	実績	評価
原単位	0.109 L/t	0.059 L/t	○
総量	770 L	433 L	○

原単位、総量ともに削減できました。



軽油使用量削減の取り組み

- 不良対策による出動回数の削減



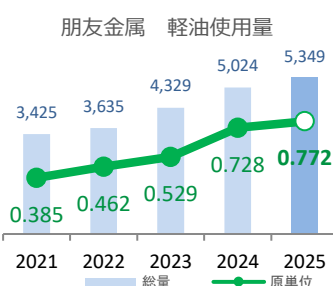
■ 朋友金属 軽油使用量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・効率的な運転 ・アイドリングストップ

トラック2台

軽油	目標	実績	評価
原単位	0.721 L/t	0.772 L/t	×
総量	4,973 L	5,349 L	×

原単位、総量とも未達成となりました。年々増加する軽油使用量に対し、運送効率の改善に加え追加の対策が必要であると考えます。



軽油使用量削減の取り組み

- トラックの効率的な運送計画

- 可能な限り製品を積載する



● 廃棄物排出量削減

貢献するSDGs



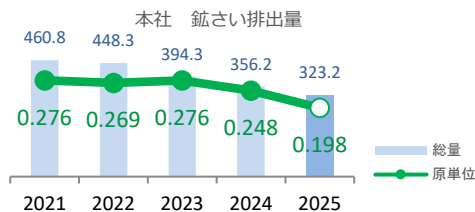
■ 本 社 廃棄物排出量削減 目標：鉋さい 2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・シェル砂の無駄を省く ・フィルター清掃

鉋さい	目標	実績	評価
原単位	0.245 t/t	0.198 t/t	○
総 量	352.6 t	323.2 t	○

原単位、総量とも目標達成となりました。

* 有価物の古砂を除いた鉋さいのみを対象としています。



廃棄物排出量削減の取り組み

● 中子不良を減らすように努めています



鉋さいは鋳物製造の工程で発生する廃棄物で、すべて再資源化されています。



	2024年度	2025年度
再生利用 (路盤材)	356.2t	323.2t
再生利用 (中子砂) *	145.4t	210.3t

* 同時に排出される有価物の古砂(中子砂)は次年度より廃棄物扱いとなります。

■ 和泉工場/筑波出張所 廃棄物排出量削減 目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

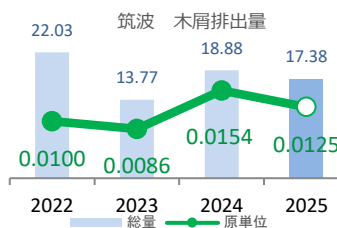
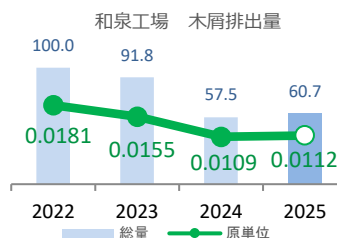
● 目標達成手段 ・網スキット(パレテナ)への移行

和泉 木くず	目標	実績	評価
原単位	0.0108 t/t	0.0112 t/t	×
総 量	56.9 t	60.7 t	×

木くずの排出量が増加しました。

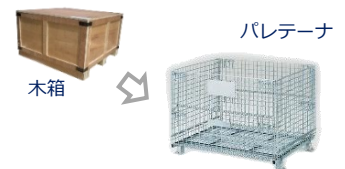
筑波 木くず	目標	実績	評価
原単位	0.0152 t/t	0.0125 t/t	○
総 量	18.7 t	17.4 t	○

筑波では木くずの排出量が減少しました。



廃棄物排出量削減の取り組み

● 梱包材の見直し



● パレテナを中国に返送しリユース

2024年度実績：400ケース返却
2025年度実績：600ケース返却

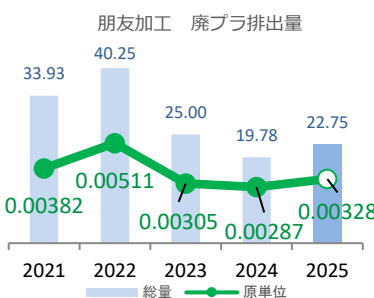
■ 朋友金属 廃棄物排出量削減 目標：廃プラ 2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・リユース ・リサイクル

廃プラ	目標	実績	評価
原単位	0.00284 t/t	0.00328 t/t	×
総 量	19.6 t	22.8 t	×

前年度より廃プラスチックの排出量が増加し未達成となりました。

* 3S活動で不要なものを処分した為、一般廃棄物も昨年度より増加しました。



廃棄物排出量削減の取り組み

● パレテナのサイズに応じた袋の適正使用



● パレテナ袋の再利用

3s

活動

専門コンサルタントの指導のもと3S活動を推進しています。不要物の削減や設備の適切な管理、作業効率の向上に取り組むことで、資源やエネルギーのムダを削減し、環境負荷の低減と生産性向上の両立を目指しています。

3S活動による改善例

- 不要品の撤去・整理 → 資源・エネルギーのムダ削減
- 保管場所の適正化・定位置管理 → 作業効率・生産性の向上
- 清掃・点検の徹底 → 設備の適正管理による省エネルギー

期待される環境効果



●水使用量削減

貢献するSDGs



■ 本 社

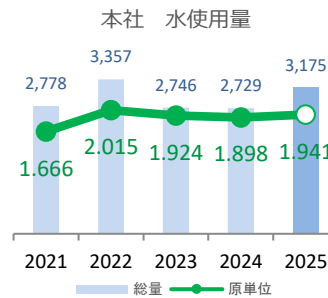
水使用量削減

目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

● 目標達成手段 ・節水の呼びかけ

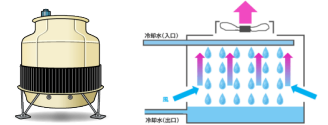
水	目標	実績	評価
原単位	1.879 m ³ /t	1.941 m ³ /t	×
総 量	2,701.7 m ³	3,175.0 m ³	×

水漏れが4月と2月に2回発生したのが原因で未達成となりました。今後は水漏れに注意します。



水使用量削減の取り組み

● クリーニングの水使用量の徹底管理



■ 和泉工場

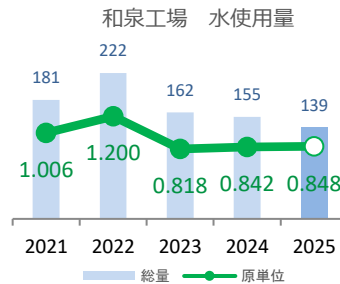
水使用量削減

目標：現状維持に努める(原単位)

● 目標達成手段 ・節水の呼びかけ

水	目標	実績	評価
1人当たり	1.000 m ³ /人	0.848 m ³ /人	○
総 量	155 m ³	139 m ³	○

現状維持ができました。



水使用量削減の取り組み

● 作業着洗濯のまとめ洗い



■ 朋友金属

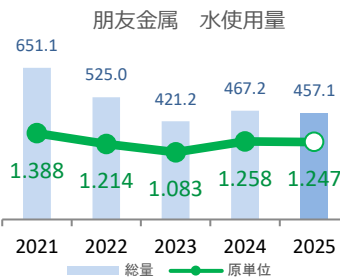
水使用量削減

目標：2024年度実績値を維持する(原単位)

● 目標達成手段 ・節水の呼びかけ

水	目標	実績	評価
原単位	1.258 m ³ /人	1.247 m ³ /人	○
総 量	467.2 m ³	457.1 m ³	○

全体の総使用量が削減でき目標達成となりました。



水使用量削減の取り組み

● 節水の呼びかけポスター



加工部の切削油に混合する水使用状況

水	前年度実績	2025年度実績	増減
原単位	0.1548 m ³ /t	0.1603 m ³ /t	増加
総 量	144.0 m ³	132.0 m ³	減少

加工部の原単位使用量は増加しましたが総量は削減できています。

○水使用量が多い設備
2台の洗濯機



●緑化活動による生物多様性への貢献

貢献するSDGs



生物多様性の保全の為に緑化活動に取り組んでいます。

緑化スペースの維持に努めました。



● 化学物質使用量削減

貢献するSDGs



■ 本 社 化学物質使用量削減

目標：2024年度実績の1%削減(原単位)

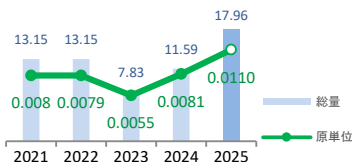
● 目標達成手段 ・使用量の削減 ・使用量の徹底管理

ヘキサメチレンテトラミン (『ハートコートE』)

ホウ酸ナトリウム (『パッチング材HA17パッチ改Y』)

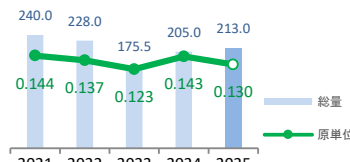
目標	実績	評価	
原単位	0.0080 kg/t	0.0110 kg/t	×
総量	11.47 kg	17.96 kg	×

メナサスによる無駄が発生していて、年々増加傾向にあります。



目標	実績	評価	
原単位	0.141 kg/t	0.130 kg/t	○
総量	203.0 kg	213.0 kg	×

原単位目標が達成できました。



『ハートコートE』

(用途) 造型時の溶湯による荒らされ(铸肌不良)を防ぐために铸型の表面に塗布

『パッチング材HA17パッチ改Y』

(用途) 処理鍋作成時に使用

○その他の使用量を記録・管理している化学物質

- ・マンガン
- ・炭化けい素 SiC
- ・酸化ホウ素
- ・モリブデン化合物
- ・トルエン
- ・硫化 (2,4,4-トリメチルペンテン)
- ・n-ヘキサン

■ 朋友金属 化学物質使用量削減

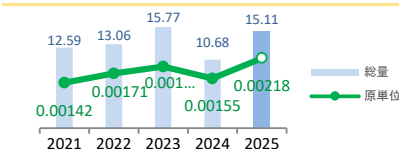
目標：2024年度実績値を維持する(原単位)

● 目標達成手段 ・使用量の削減 ・使用量の徹底管理

エチルベンゼン

目標	実績	評価	
原単位	0.00153 kg/t	0.00218 kg/t	×
総量	10.57 kg	15.11 kg	×

使用量が大幅に増え目標達成出来ませんでした。



①イサム_APアライマー、②ラッカーSPレ-JAPAN、③アライマーブラウン

キシレン

目標	実績	評価	
原単位	0.00221 kg/t	0.00266 kg/t	×
総量	15.24 kg	18.44 kg	×

昨年度比で2割増加し、目標未達成となりました。

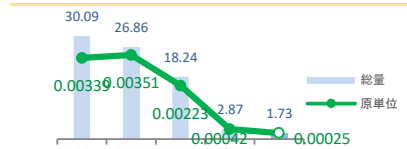


①イサム_APアライマー、②ラッカーSPレ-JAPAN、③アライマーブラウン、④アクリルSPレブラウン

トルエン

目標	実績	評価	
原単位	0.00041 kg/t	0.00025 kg/t	○
総量	2.84 kg	1.73 kg	○

対象の塗料の使用量が減り、目標達成となりました。



③アライマーブラウン

ジエタノールアミン

目標	実績	評価	
原単位	0.00101 kg/t	0.00144 kg/t	×
総量	6.93 kg	10.01 kg	×

洗浄剤であるリノアクリナーの購入数が増加しました。



化学物質使用量削減の取り組み

- 管理表等による使用量管理
- 使用量適正化
- 対象化学物質を含有しない製品への切替検討

● 環境に配慮した生産・活動の推進

貢献するSDGs



環境に配慮した生産・活動として不良率を最小限に抑えることを目指しています。

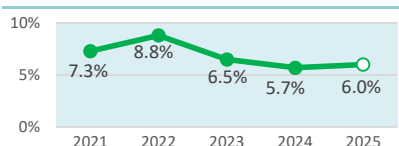
■ 本 社

不良率 ISO品質目標と同一

・不良率の低減 ・原因説明、改善

目標	実績	評価	
不良率	6.0%	6.0%	○

目標達成出来ました。



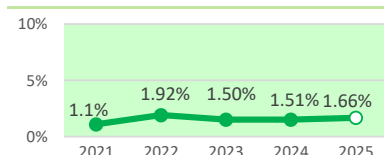
■ 和泉工場

不良率 2024年度実績の1%低減

・不良上位3の対策を図る

目標	実績	評価	
不良率	1.49%	1.66%	×

不良品が増加し目標未達成となりました。



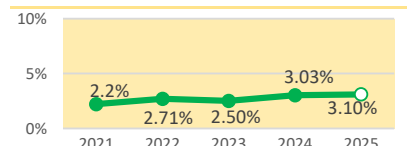
■ 朋友金属

不良返品率 2024年度実績の1%低減

・不良内容のフィードバックと対策フォロー

目標	実績	評価	
返品率	3.00%	3.10%	×

不良返品率が昨年度に引き続き増加し未達成となりました。



環境に配慮した生産・活動の推進の取り組み

○毎月本社でISO品質会議を行い、プロセス管理を通して不良品対策、不良率低減に努めています。

●環境関連法規等の遵守状況

法規制等	評価	評価方法又は対策内容	対象
公害防止組織法	遵守	公害防止管理者/総括者選任届出書	本社
大気汚染防止法	遵守	高石市ばいじん数値報告 集塵機設置	本社
水質汚濁防止法	遵守	協同組合内処置 30m ³ /日 厳守	本社
浄化槽法	遵守	1回/1年 定期検査、清掃1回/3ヶ月	朋友金属
騒音規制法	遵守	特定施設設置届出	朋友金属
振動規制法	遵守	特定施設設置届出	朋友金属
化管法	遵守	対象化学物質の排出量・移動量の届出	本社
消防法	遵守	市町村 1回/3年 点検実施報告書	本社、和泉工場、朋友金属
廃棄物処理法	遵守	大阪府報告 マニフェスト管理	本社、和泉工場、朋友金属
フロン排出抑制法	遵守	簡易外観点検 1回/3ヶ月	本社、和泉工場、朋友金属
粉塵障害防止及びじん肺法施行規則	遵守	労働基準監督署報告 1回/3年	本社
労働安全衛生法	遵守	リクアセスメントの実施 1回/1年	本社、和泉工場、朋友金属
〃	遵守	健康診断	本社、和泉工場、朋友金属
環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。 また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。 代表取締役 津田岳彦			

SDGs活動



3 健康と福祉	全てのの人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する ・熱中症対策 ・受動喫煙対策 ・地域助け合いAEDステーション登録 ・健康宣言 社員の検診受診率100% 受診勧奨の取組 保険指導の受診率35% 女性の健康保持・ 増進に向けた取組 受動喫煙対策
4 質の高い教育をみんなに	質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する ・環境教育 ・資格手当制度
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る ・ハラスメント防止対策
8 働きがいも経済成長も	働きがいも経済成長も すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する ・高齢労働者の労働災害防止対策 ・労働環境改善
9 産業と技術革新の基礎をつくらう	産業と技術革新の基礎をつくらう レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する ・紀陽SDGs私募債



地域貢献とSDGs

・和泉テクノFCサポーターズクラブ プラチナ会員
地域のスポーツクラブの活動をサポートしています。



・アルバモススポーツフェス オープンファクトリー出展



3 全てのの人に健康と福祉を
11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナリーシップで目標を達成しよう

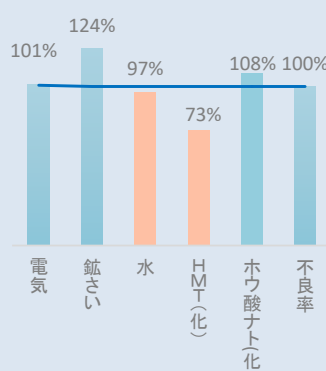
次年度の取組内容

二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	エネルギー使用量をサイト全体で共通して1%削減を目標に取り組み、結果として同等量の排出減を目指す (2022年度のCO ₂ 排出量の算定係数を用いる 関西電力0.311kg-CO ₂ /kWh, 東京電力エネルギー・パートナー0.457kg-CO ₂ /kWh)	
電気使用量		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	・工場機械用品の作業効率化及びメンテナンス強化・不要な照明を消す・空調の適温化・トラブル防止	
和泉工場、和泉第2、筑波	・不要な照明を消す・ショットブラストの時間短縮・空調の適正管理・工場機械用品の作業効率化	
朋友金属加工	・効率のよい生産計画・不要な照明の電源OFF	
朋友金属業務	・空調の温度設定・不要な照明、電気機器の電源OFF	
ガソリン使用量		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	(特に定めず)	
和泉工場	・アイドリングストップ・適正速度の実施	
朋友金属	・アイドリングストップ・効率的な運転・迅速な不具合対策	
軽油使用量の削減		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	(特に定めず)	
和泉工場、和泉第2	・アイドリングストップ・適正速度の実施	
朋友金属	・アイドリングストップ・効率的な運送計画	
廃棄物排出量の削減		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	鉾さい・フィルターの清掃・シェル砂の無駄を省く・主砂の粒度調整	
和泉工場、筑波	木くず・木箱から網スクリーンへの移行	
朋友金属	廃プラ・リサイクル・リユース率を上げ排出量を抑制する	
水使用量の削減		次年度目標：【本社】2025年度実績に対し1%減【和泉工場】現状維持【朋友金属】前年度実績を維持
本社	・節水のよびかけ・漏水管理	
和泉工場	・手洗い場、食堂、トイレ、洗濯場等での節水ポスターによる節水のよびかけ	
朋友金属	・手洗い場、食堂、トイレ、洗濯場等での節水ポスターによる節水のよびかけ	
化学物質使用量の削減		次年度目標：2025年度実績に対し1%減
本社	・取扱に注意し使用量を少量ですませるよう心掛ける、使用量の徹底管理	
和泉工場	・使用量の把握・注意をはらって取り扱う	
朋友金属	・取扱に注意し使用量を少量ですませるよう心掛ける、使用量の徹底管理	
環境に配慮した生産・活動の推進		次年度目標：【本社】不良率6%【和泉工場・朋友金属】前年度実績に対し1%減
本社	・不良率の低減・原因解明・改善	
和泉工場	・海外品の不良率の低減・原因解明・改善	
朋友金属	・不良内容のフィードバックと対策フォロー	
環境意識の向上		次年度目標：環境教育・環境活動の実施回数：年6回
本社	・環境意識向上のため、環境教育を行う。	
緑化活動による生物多様性への貢献		
本社、和泉工場、朋友金属	・緑化スペースの維持・3S活動による清掃活動の実施	
「プラスチック・スマート」キャンペーン参加・継続		
本社、和泉工場、朋友金属	・「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加し、取り組む	

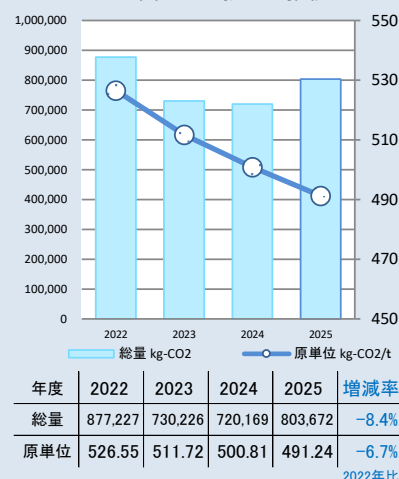
本 社

CO₂排出量は昨年度より111.6%となり増加しました。但し、生産量が昨年より14%増加しています。排出係数を基準値を用いて算出した場合、原単位で昨年度の1%削減の目標を達成できているので、環境経営活動の取組は評価できます。鉱滓の排出量は、削減でき良かったです。不良率は目標達成できましたが、代わりに対策として新砂をどんどん投入した結果、有価物としての排砂が著しく増加しました。次年度からは、有価物でなく廃棄物扱いになるので、排砂を減らす対策を講じないといけません。

目標達成状況



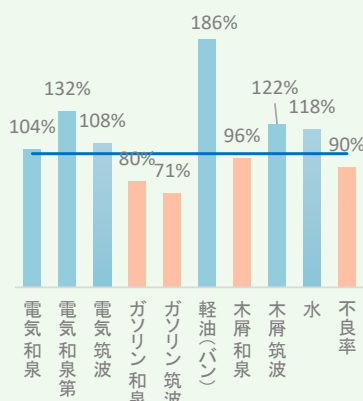
本社 CO₂排出量推移



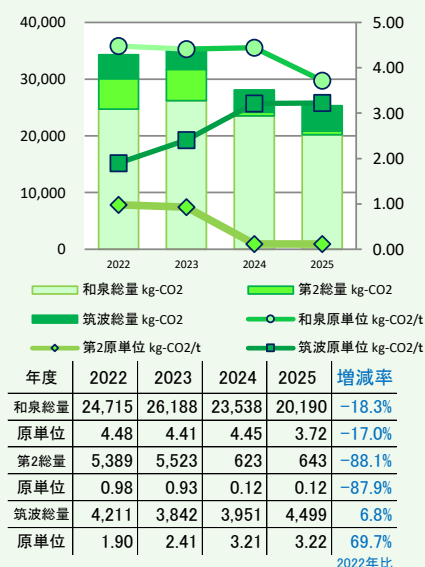
和泉工場

3サイトのCO₂排出量は、昨年度より10%削減できました。排出係数を基準値を用いて算出した場合でも8%削減できたので、環境経営活動の取組は評価できます。内訳は、和泉工場が達成で、第2、筑波は未達成でした。電力量の原単位は、各サイトとも達成できたので、効率よく作業が行われた結果だと考えられます。不良率が悪化し、不良品の対応で出勤回数も多くなり、ガソリンの使用量も増加しました。

目標達成状況



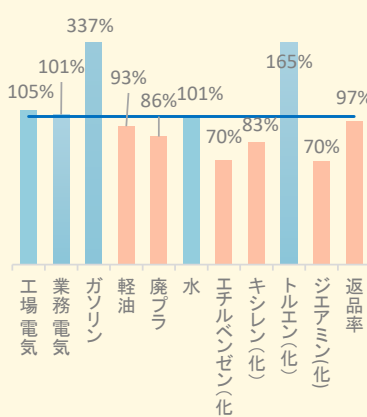
和泉工場 CO₂排出量推移



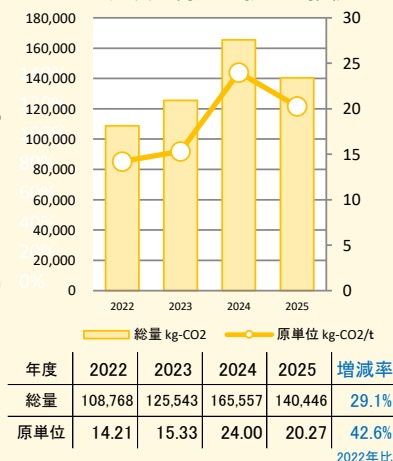
朋友金属

2025年度は、加工生産量が前年度比11%減少したことに伴い、CO₂排出量に大きな影響を与える電力使用量も大幅に減少しました。また、生産量当たりの原単位についても削減目標を達成しており、省エネルギーへの取り組みの成果と考えます。加えて、ガソリン使用量の大幅な削減もCO₂排出量の低減に寄与しました。2026年度は、新たにマシニングセンタ2台の導入を予定しており、生産量の増加に伴う電力使用量の増加が見込まれますが、生産性の向上や効率的な生産計画の推進、省エネルギーの継続的な取り組みにより、CO₂排出量の削減に努めます。

目標達成状況



朋友金属 CO₂排出量推移



総合評価

実施日：2026年6月5日

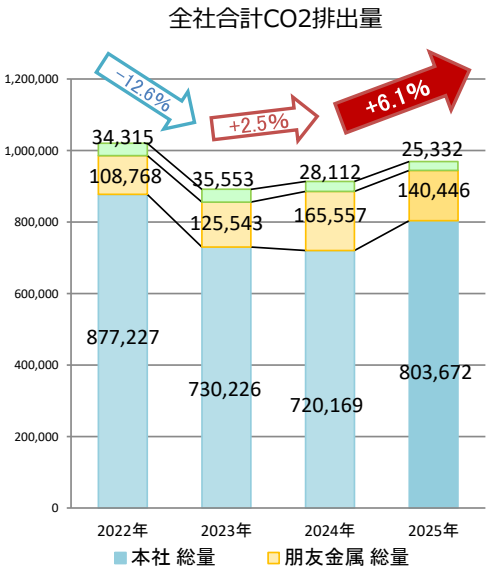
2025年度は、朋友加工を除く全社において、生産量、出荷量および取扱量が前年度を上回りました。そのような中、和泉工場および朋友金属ではCO₂排出量の削減を達成し、優れた成果を収めました。本社工場では、生産量が前年度比114%と増加したことに伴い、CO₂排出量も増加しましたが、原単位では削減目標を達成しており、高く評価できる結果となりました。

特に電力使用量については、本社工場および筑波出張所では使用量が増加したものの、生産量の増加を上回ることなく、全拠点で原単位目標を達成しました。これは、生産性の向上や省エネルギーへの継続的な取り組みの成果であり、CO₂排出量の抑制に大きく寄与したものと考えます。

一方で、和泉工場および筑波出張所におけるガソリン使用量、ならびに朋友金属における軽油使用量の増加は今後の課題です。また、化学物質使用量についても全体的に増加しており、使用量の抑制に向けた対策を講じる必要があります。

さらに、本社工場では製造活動によるものではなく、水漏れが原因で水使用量が増加したことから、設備管理を徹底し、再発防止に努める必要があります。

結果として、全社トータルのCO₂排出量は前年度比6.1%増加しました。生産量の増加を考慮すると一定の成果は認められるものの、総排出量についても削減を実現できれば、より望ましい結果であったと考えています。



次年度は、各拠点がそれぞれの課題を明確にし、目標達成に向けた取り組みを一層強化してまいります。生産量の増加が見込まれる中であっても、生産性の向上や設備稼働の最適化、省エネルギー活動を継続し環境負荷の低減に努めます。また、ガソリン・軽油使用量の削減、化学物質使用量の適正管理、水漏れ防止など各課題に応じた改善活動を進め、CO₂排出量のさらなる削減を目指します。さらに、全社共通の課題として、品質改善活動や3S活動を通じてムダを排除し、業務効率の向上を図ってまいります。

引き続き、継続的な改善を実践し、環境と事業活動の両立させながら、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを進めてまいります。

<環境方針、目標の見直しについて>

	変更の必要性	代表者の指示
環境経営方針	有 ・ ☒ 無	現環境経営方針を維持する。
環境経営目標及び環境経営計画	☒ 有 ・ 無	2026年度の環境経営計画目標値は、原則として前年度実績の1%削減として取り組む。
実施体制	有 ・ ☒ 無	現実施体制を維持する。